

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679100190
法人名	有限会社 ウィル
事業所名	グループホーム たんぼぼの家
所在地	鹿児島県大島郡徳之島町亀津122番地2 (電話) 0997-81-1249
自己評価作成日	令和4年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徳之島の中心に位置し、ファミリーマートまで徒歩1分の所にあり、とても開放感のある施設です。
起床時間や食事の時間、入浴等も入居者の方のその日の容態に合わせて柔軟に対応しています。
入居者の方の人権尊重を第一に考え、身体拘束排除、虐待防止の研修の実施、スタッフの声の掛け方や話し方、態度の教育にも力を入れています。
スタッフ同士の連携を図ることで、和気あいあいとした雰囲気の中で入居者の方と過ごせるように努めています。
島内にご家族が不在な方の入居者の方には、緊急時や病院受診時に駆けつけることができる保証人の方を1名設置することをお願いしています。
又、医療機関と連携体制を構築しているので、ご家族、ご本人の同意のうえで看取り介護を実施しています。
歯科医院とも連携し、虫歯治療、入れ歯調整、その他の口腔ケアが必要な方にも施設内での対応が可能となっています。
コロナの状況にも寄りますが、面会時間や外出、外泊の制限も設けておりません。ご家族が気軽に立ち寄れる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者や職員は、事業所の理念を共有しながら利用者に寄り添った支援を行っている。
- ・重度化・終末期・看取りは医療機関との連携、訪問診療や訪問看護師と連携を図りながら職員・家族と共に看取りを行っている。
- ・コロナ感染防止の為に面会が制限されていた時期には窓越し面会やLINEや動画配信等で家族と繋げたり、便りで写真と共に様子を伝えたりして関係が途切れないよう工夫しながら取り組んでいる。
- ・職員同士のコミュニケーションが取れていて仲が良く話しやすく働きやすい職場である。資格取得への支援もある。
- ・身体拘束は「絶対にしない」と意識を高め、全員で事例などを参考に繰り返し勉強会をして資質を高めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 研修の受講により、新しい介護の在り方や考え方を学び、研修後は、実践や学びの共有ができるように全スタッフに伝えることに務めています。 	地域密着型サービスを視野にいたれた理念があり、パンフレットに掲載し、廊下や事務所に掲示している。ミーティングで理念を中心に、ゆっくりとした時間を過ごし楽しく生活できるように全職員で取り組んでいる。新人スタッフにも研修している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により地域との交流は途絶えていた。地域の感染状況を見ながら感染症対策を行ったうえで交流を再開したいと思っている。 	毎年餅つき大会等の地域行事に参加していたがコロナ感染防止の為に地域との交流を自粛している。散歩時の挨拶や地域の方からの野菜やバナナ等の差し入れがあり地域との交流が途切れないように努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により地域との交流や研修会が途絶えていたが、状況を見ながら再開していきたい。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 施設内でコロナ感染もあり、思うように運営会議が実施できていない月もあったが、状況を見ながら再開しています。 	コロナ禍で運営推進会議は、関係者に書面でホームの現況やヒヤリハット・事故等の報告を行い、電話や直接会って意見や情報をサービス向上につなげている。面会の件やボランティアの受け入れ等の意見を職員で話し合いサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・他のGH管理者と定期的に集まり新しい認知症介護の考え方、制度について情報交換を行っている。制度の変更等について市長村担当者や、県の担当者に相談しながら確認している。	町担当者との連携は窓口書類提出に行った時や必要に応じて相談をしている。電話やメールでも制度の変更等について連携を取っている。研修の案内等もあり参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎年1回以上の身体拘束等に関する研修会を実施している。日中間の玄関の施錠は行っていない。毎月社内研修会で身体拘束排除に向けた報告会を実施。	身体拘束廃止委員会があり毎月のミーティングで身体拘束について研修を行っている。毎年数回研修会も行っている。玄関の施錠は日中は行っていない。外出希望の利用者には職員が付き添って散歩をしている。「身体拘束は絶対しない」と職員会議でも意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年1回以上の高齢者虐待等に関する研修会を実施している。日中間の玄関の施錠は行っていない。毎月社内研修会で身体拘束排除に向けた報告会を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・必要な研修を受講し、毎月の社内研修へ報告を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は保証人の方へ説明をしながら契約締結を行っています。加算取得時の料金改定時は文書でお知らせしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	LINEや電話、メール等、又は職員へ相談に応じるようにしています。	利用者からは、暮らしの中でゆっくりしている時などに話しかけ、思いを把握している。家族からは、毎月、便りをお届けしたりラインの動画を配信し相談や要望が返ってくる。面会時や電話・LINE・メール等で意見を聞いている。意見や要望があれば話し合い運営に反映できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・コロナの影響もあったおかげで、職員体制や勤務状態、職務内容も臨機応変に柔軟に対応できるように互いに相談しながら運営を行えるように努めています。	管理者は職員といつでも相談できる環境づくりに配慮し、職員と話し合い運営を行っている。職員の提案で爪やすりの使用や食器の使い捨て容器活用等、コロナ禍で工夫しながら取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスを構築し、資格取得や勤務年数、研修受講状態により給与アップを図れる体制を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修、入社時研修を実施している。会議福祉士実務者研修も当施設で取得できるように整備した。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>徳之島GH協議会の設置はあるが、コロナの影響で活動できていない状況。R4年6/21に、当施設で島内GH管理者との情報交換の場を設けた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・入居時や入居後もその方の様子を見守りながら、職員全員で気づいた事を報告、相談品が関係作りに努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・入所前はもちろん、入所後もご家族と相談しながら関係性の構築に努めています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・ご本人の様子を見守りながら柔軟に対応しながら支援を行えるよう努めています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・昔歌や方言を教わりながら、職員と入居者と相互の関係性を大事にしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・体調変化時や、施設内での困りごとや気づいた事もその都度ご家族へ報告し、常につながりを感じられる関係性を維持できるように努めています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・コロナの影響により、外部との交流が途絶えていたが、感染症対策を行いながら関係性の再開に向けて取り組んでいきたい。</p>	<p>家族や知り合いの面会は窓越しやポーチで行っている。電話の取次ぎをして馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。居住していた付近にドライブして昔の思い出話を聞いて馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・少人数なので関係性の把握もしやすい。</p> <p>・それにより、座席を変えたり、食卓の場所を変えたり、柔軟に対応しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・委託先のケアマネへ連絡を行い、今の状態や変化等を聞くようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日々の生活の中で、移動や食事、入浴に関する介助を実施する中で必ず、ご本人様へ了承を得る声掛けを実施している。	ホールで昼食後のお茶のみの時など話しかけ毎日の生活の思いや暮らし方の希望を聞いている。特に入浴時に話をされることが多い。うまく伝えることができない利用者には家族や以前のかかわりのあった関係者に話を聞いたりして利用者の思いに添うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族や前ケアマネから情報を得るとともに、ご本人から発せられる昔話や、本人の意向を尊重し、把握に詰めているが、それだけにとらわれない様に今のご本人の意向や状態に応じられるように柔軟に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その日の容態や機嫌、ご本人の意向に沿った生活が送れるような支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画を作成しても、それ以外の活動や本人の状態、意向の変化があれば柔軟に対応している。介護職員同士で相談しながらその日の過ごし方を常に変化させながら支援を行っている。	本人の生活歴やこれからの希望を把握し、家族・主治医・訪問看護師・職員とも話し合いを行いながら介護計画を作成している。モニタリングも定期的に行っている。入院・退院後等の変化があるときは現状に即した介護計画の見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日個人記録を記入している。小さな変化時にも気づけるように記録や申し送りをを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・日々柔軟に対応できるように職員同士が相談しながら支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナの影響で地域との交流が途絶えています。状況を見ながら、感染症対策を取ったうえで再開していきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整えている。毎月の訪問診療、訪問看護を施設内で実施している。受診が必要な時は速やかに医療機関の受診に繋がれるように努めている。	本人・家族の希望するかかりつけ医である。医療連携体制も取っている。訪問診療・訪問看護がある。他科受診は家族に付き添ってもらっているが、事業所で対応する時もある。適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>気づいた事は訪問看護へ連絡し、相談できる関係性を構築している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入院退院時には情報提供を行っている。 ・退院前カンファレンスも必要な方には、ご家族とともに参加しています。 		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りは、ご家族、ご本人、医療従事者との意向により実施しています。 ・医療、介護、家族と交えて今後の見立て、計画を行っています。 	<p>重度化・看取りの指針があり、利用開始時に説明をしている。家族や関係者と段階的に話し合い事業所でできることを共有し終末期の支援を行っている。今までも多くの看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が救急法基礎を学び、社内研修でスタッフへ伝えている。 ・コロナ収まれば消防と連携し応急手当の対応についての計画を立てている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で訓練実施ができていない状況。 ・地域の状況を見ながら、感染症対策を取りながら実施していきたい。 	<p>防災のリーダー研修会に参加しマニュアルを基にコロナ禍で消防署には来てもらっていないが自主訓練で職員が中心になって火災想定で実施している。避難経路の確認をしている。避難場所は近くにある工場の駐車場である。近隣住民の協力体制ができています。備蓄は米や水・インスタント食品・パン・菓子等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>・声の掛け方、名前の呼び方等研修機会を持ち、馴染みの関係の中でも敬いの気持ちを忘れないように、スタッフ同士で気を付けるように努めています。</p>	<p>研修会で、個々の人格を尊重しプライバシーに配慮して、声掛けや名前の呼び方・入室時のノック・トイレ誘導時のさりげない声掛け等に心配りを行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>・常に自己決定ができるような声掛けを行うように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・ご本人の意向を聞き承諾を得て、日々の支援を行えるようなかかわり方に努めています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>・季節に合わせた身だしなみができるように支援をしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・下膳等でスタッフと共に行っています。コロナの影響により、調理や配膳は最小人数で実施しています。 	食事は職員が交代で調理している。利用者の状態に応じて食材の形態や刻み食や量等、調節している。利用者と一緒に下膳をしながらおしゃべりをして、食事が楽しみになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に応じて、ご飯、お粥、刻み食や量を調整しています。 ・必要な方には高カロリーペースやエンシュアも提供しています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアを実施。 ・歯科と連携し、虫歯治療、入れ歯調整、口腔ケアを積極的に行っています。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェックを行い、トイレ誘導や排泄管理を行っています。 ・Rパンツから布パンツへ移行できた方もいますし、オムツから布パンツへ移行、トイレで排尿が可能となった入居者もいらっしゃいます。 	排泄チェック表を使いながら排泄管理やトイレ誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツ、おむつから布パンツへ、夜間のみリハビリパンツ等、個々に応じた排泄の自立に向けての支援を行い、自立に向けての改善がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便についての研修会、確認テストを実施している。その日の申し送りで排便状況も把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人に先ず、「今日は入浴日ですが」と提案します。午前、午後でも声掛けをします。ご本人からの要望があった時にも、できるだけ対応できるように支援体制をとっています。 	毎日、午前午後いつでも入浴できる体制である。職員から利用者に声掛けを行っている。利用者から要望があり対応している。嫌がる利用者には声掛けを工夫して気持ちよく入浴できるような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・前日や前夜の様子を申し送りで把握し、体調や容態に合わせて無理なく快適に過ごせるような柔軟な対応を行っています。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬カード等で全スタッフが把握できるように情報を整えます。 ・服薬の変更があれば記録し変化も記録している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・施設庭の草取り、散歩、編み物等、ご本人の意向を尊重し支援できるように努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>施設外への散歩、草取りには本人の意志を尊重し、実施できるようにその都度対応している。</p>	<p>天候の良い時は園庭に出て散歩をしたり外気浴や草取りをしている。医療機関への受診時はドライブして車中から桜や菜の花などの季節の花をみて楽しめるようにしている。戸外にできるだけ出かけられるように支援に努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な方にはご本人やご家族、施設スタッフで把握し対応する。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙も対応してます。ご家族とLINEでつながっています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事の飾りつけを行っている。石鹸や消毒液の設置も入居者の方の安全確保を優先に設置している。	ホールは広く窓が多く明るい。空調・換気・温湿度の管理も行われている。ソファが置かれ奥には畳の間もある。壁には季節の飾りつけや行事の写真等を掲示している。それぞれ自分の好みの場所でくつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関先にソファを設置し、それぞれのお気に入りの場所や空間作りに柔軟に対応できるような取り組みを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使われていたタンスや飾り、仏壇の持ち込みを了承しています。整理整頓をご本人と行い、清潔で安全に、ご本にとってわかりやすい居室作りを行っている。	プライバシーが確保され安心して過ごせる居心地のいい居室になっている。自宅でいつも使用していたタンスやテレビ・ラジオ等を持ち込み、遺影や家族の写真等を置き安心して居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内の名前の設置（ご本人の意向に合わせて）、トイレや入浴場の案内を設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない